

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志					
配当 学年	全回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	古都の近現代										
【授業の概要・目的】											
奈良・京都の古都とは、かつて天皇が住んだ旧都であり、近代天皇制の課題である。昨今、空前の古都観光ブームで、2013年には5000万人を超える京都市観光客であり、「京都検定」、大学の「京都学」も盛んである。こうした観光言説としての古都論を批判的に見て、近現代における「歴史」「伝統」「古代」の意味を通史的に考えたい。また古都イメージの起源（京都＝「日本文化」、「雅」、「貴族」、「町衆」、奈良＝「天平文化」、「日本のギリシャ」）を近現代史を通じて考えたい。前期は主に19世紀の古都を取り上げるが、扱う問題は、政治・美術・文化財・観光・儀礼など多岐にわたるが、具体的には授業計画を参照されたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できるように指導する。古都の近現代について、授業とフィールドの両面から、理解を深めるようにする。											
【授業計画と内容】											
1 , 近世の朝廷と京都 ・大嘗祭・朝儀の復興 ・観光スポットとしての京都御所 ・泉涌寺・皇室由緒寺院と皇室の仏事 など 2 , 明治維新と古都 ・「神武創業」と古都奈良の浮上 ・東京「奠都」(1869)という起点 ・泉涌寺の明治維新 ・古都の文明開化 京都博覧会・奈良博覧会・新京極の成立 など 3 , 19世紀、世界の「伝統」保存を学ぶ ・ロシア・オーストリア・イギリスなどの王室と伝統文化 ・岩倉具視の「旧慣」保存策(1883) ・古社寺調査と保存の開始 ・岡倉天心・フェノロサと欧米の美術・文化財論 ・大日本帝国憲法の発布と帝都東京・古都奈良・京都の定置 など											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

東山、嵯峨野、京都御苑、神武陵など、古都の近代に関わる巡見を希望者とする。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。